

## 短 報

## 障害福祉サービスの高齢化・老化の現状と課題 －居住系障害者施設の“住い”に関する意見交換会中間報告－

あかしや園

井上 友和・牧野 光雅  
安達 正信

かえで寮

北野 博史

吉備ワークホーム

中村 誠一

旭川敬老園

森 繁樹

**キーワード** 高齢化、老化、高齢障害者、サービス移行難民

### 1.はじめに

障害者自立支援法や介護保険法等の実施により、居住系施設に暮らす障害者の住いのあり方も多様化するとともに、制度の狭間に陥るような課題も散見される。また、入所施設利用者の高齢化の問題や、地域移行した利用者が機能低下等により地域生活が困難になってくる問題にも直面しつつある。

障害者自立支援法という新たな制度が発足して約5年経過する中で、旭川莊においては、「居住系障害者施設の“住い”に関する意見交換会」が開催された。現在までの意見交換を通して検討された、今後の障害者支援の“住い”をめぐる現状と課題について報告する。

### 2. “住い”に関する意見交換会

「居住系障害者施設の“住い”に関する意見交換会」(\*以下、意見交換会)は、祇園地区、ひらた地区の居住系施設9施設が種別横断的に集まって開催された。

2回開催された意見交換会では、主に以下の3点について話し合われた。

- ① 旭川莊内の居住系障害者施設における高齢化・老化の現状の把握
- ② 施設から地域移行した人の高齢化・老化に対する支援の継続性についての考察
- ③ 障害福祉、高齢福祉を併せ持つ「総合福祉施設」旭川莊のスケールメリットを生かして改善できる課題についての考察

参加施設は表1の通りである。

種別	施設名
知的関係	愛育寮、いづみ寮、かえで寮、わかば寮、 あかしや園 URは地域生活ホーム運営
身体関係	吉備ワークホーム、竜ノ口寮、のぞみ寮
高齢関係	旭川敬老園

表1.“住い”に関する意見交換会参加施設

### 3. 高齢化・老化の現状

#### 1) 高齢化・老化に関するアンケートより

意見交換会では、対象の施設における年齢割合、また、高齢化・老化した利用者を支援する上で課題となっている事項についてアンケートを実施した。

##### (1) 高齢化の状況

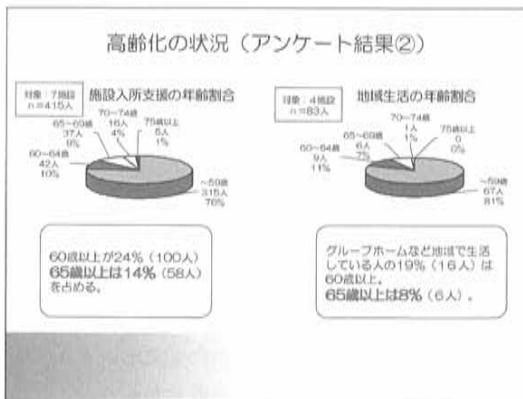
対象の8施設の障害者支援施設(含、地域生活ホーム)で生活する498人のうち、65歳以上の人には12% (64人) であることが分かった。なお、60歳以上の人には23% (116人) であることから、5年後には約4分の1の人が65歳以上になる状況である。

#### 高齢化の状況（アンケート結果①）



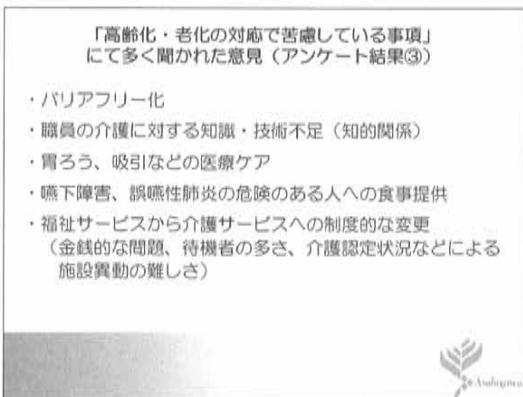
5年後には全体の約1/4が65歳以上になる

障害者支援施設（以下、施設）入所と地域生活ホームに分けると、施設入所（415人）に関しては、65歳以上が14%（58人）、地域生活（83人）では、65歳以上は8%（6人）であった。地域で暮らす人のうち6人がすでに65歳を過ぎている現状が分かった。



## (2) 高齢化・老化の対応で苦慮している事項

高齢化・老化した人を支援する上で課題となっている点については以下の回答が挙がった。



## 2) 意見交換会で出た高齢化・老化の現状

意見交換会で各施設から出た高齢化・老化に関する現状は以下の通りである。

### (1) 高齢化・老化に伴う医療・介護ニーズの高まり

- ① 施設で出来る医療対応には限界がある
- ② 機能低下に伴うバリアフリー化が必要

③ 一般的な障害者的生活支援と、介護ニーズが求められる障害者支援は、支援技術が異なる

(2) 地域移行した障害者の機能低下等による生活維持の困難さ

- ① 重度訪問介護などのホームヘルプサービスは、ヘルパーの障害者介護への理解が不充分。
- ② 報酬単価の低さのため、事業所数自体が少ない。  
※ 身体障害者の地域移行に関しては、バリアフリーの問題等、地域移行すること自体に課題が多い。
- (3) 制度の枠・狭間の問題
  - ① 市町村によっては65歳以上での障害福祉サービス受給は認められない。（介護保険優先を指導）
  - ② 生活介護に加え施設入所支援を提供している事業所は介護保険適応除外施設となり、65歳を過ぎても利用が可能。
  - ③ 訓練給付と施設入所支援を利用している利用者については、平成24年3月以降（経過措置によって）は、住いの場を失う可能性がある。

(4) 高齢障害者の生活の場について

- ① 在宅生活者や、地域生活ホーム利用者が入所施設利用を必要となつても、65歳を過ぎた人の新（再）入所は現実的に難しい。
- ② 特別養護老人ホームは待機者が多く、希望しても入所が難しい。また、要介護3（区分では4）以上が必要。
- ③ 生活体験の違いなど、高齢者施設で、障害者が適応するには課題が多い。

現状を要約すると図1で表すことが出来る。

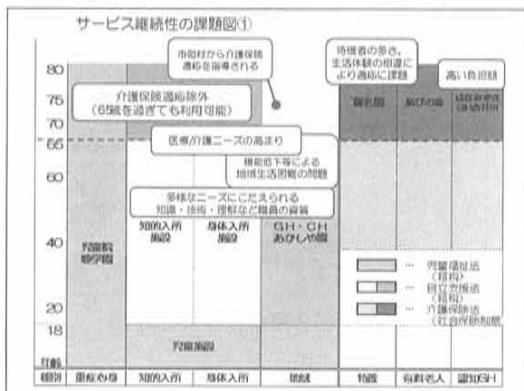


図1 サービス継続性の課題図①

#### 4. 考察

- 意見交換会で出た現状から、以下の人に対する支援について、検討が必要と考えられた。
- 1) 高齢化・老化等により多様なニーズを持ちなが  
ら入所施設で暮らす人
  - 2) 地域生活が困難で入所施設に新（再）入所を要  
する人
  - 3) 地域で暮らす介護度が低い65歳以上の障害者

1) に関しては、医療ニーズ、介護ニーズの高ま  
りを、施設機能としてどう対応（支援）するかが求  
められている。

2) は、機能低下などの理由で地域生活の継続が困  
難だが、入所施設の定員（満床）などの問題で入所  
ができないケースが生じることを予見した方策が必  
要となる。

3) は、障害者自立支援法における施設入所支援が  
65歳以上であることで施設に利用を断られたり、また  
特別養護老人ホームなど高齢者の施設も要介護度  
が満たないことや、待機者の多さから利用できな  
い人が生じることが考えられる。

2)、3) に該当する人は、自分に適した住いの場  
に移行できない、住いの場自体がなくなるなど、  
「サービス移行難民」になり得る可能性があると考  
えられる。（図2）

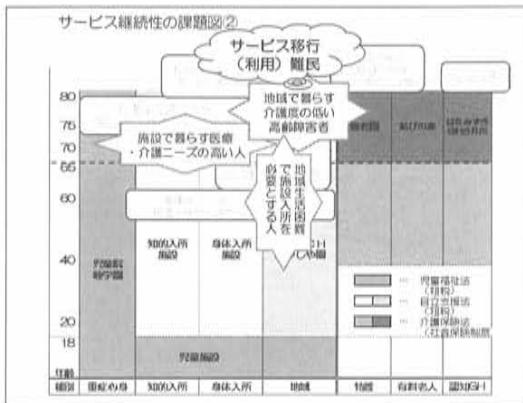


図2 サービス継続性の課題図②

#### 5. 今後の課題

- 1) 入所施設における多様なニーズへの対応

これからの入所施設には、介護ニーズにも対応できる職員が求められる。また看護師等、専門職の配置の検討などを含め、旭川荘内で種別を超えた人材育成、人員配置などによる支援体制の向上が必要となる。

また、高齢化・老化などで特別な支援が必要な人を施設内でグルーピングするとともに、バリアフリーなど設備整備された生活環境の提供、その人たちに合った、体力、集中力、安全などを考慮した日課などプログラムの提供が求められている。

#### 2) 高齢障害者の地域生活を支える支援

意見交換を通して、障害と高齢者とでは、制度が縦割りであるため、軽度の高齢障害者の行き場がなくなる現状が見えてきた。「住い」というテーマで始まった意見交換会だが、高齢となった障害者が「地域で暮らし続ける」ことをいかに支えていくか、ということにシフトする必要性も感じられた。

具体的には、高齢障害者対応の認知症グループホーム、高齢障害者を対象にしたデイサービスやヘルパー事業など、障害者に特化した介護保険事業の展開を検討することが必要と考えられる。

そのためには、旭川荘内の障害福祉関係者の介護保険制度の理解促進は欠かせない。

#### 3) 地域生活困難者の再入所について

地域で暮らす障害者、その中でも施設の支援で地域で暮らしてきた人たちへの対応策の検討が求められる。地域生活が困難になった場合には、前にいた施設への再入所を保障する仕組み、施設との確約などがあれば、安心した地域生活につながると考えられる。

#### 6. さいごに

高齢化が進んでいく動向や、職員の知識・技術の向上が求められていることを鑑みると、各施設単位で解決を図るのでなく、旭川荘としてのビジョンのもと、共通課題として協働して解決を努めることが必要と考える。

今後も障害者の高齢化・老化に関する課題が旭川荘内の様々な施設、事業を交えた形で協議されていくことが重要である。